

株式会社 エスジーズ

地域の未来を守り、創造するために
挑戦を続ける総合建設コンサルタント



最先端の技術を駆使し
業界をリードする
「すごい技術者集団」

「環境が変われば、自分が変わり、そして会社が変わっていく」をスロガンに掲げる《株式会社エスジーズ》は、鳥取県を代表する総合建設コンサルタントだ。米子市の総合建設会社《美保テクノス》のグループ企業であり、1976年に《株式会社サンイン技術センター》として誕生した。その後《サンイン技術コンサルタント株式会社》の社名を経て、2021年の創業45年の節目に、変化する時代に対応すべく《エスジーズ》として新たな一歩を踏み出した。新しい社名は「SIIすごい、GII技術者、SII集団」を意味し、山陰を拠点にグローバルに活躍する技術者集団を意味している。

総合建設コンサルタントとして、土木の測量や設計、インフラ点検、地質調査、環境調査など多方面に展開するが、注目すべきは最新の機器・設備を備えた高い技術力だ。測量や設計ではCITチームを組織して3次元BIM/CIIMなど建設DXを進め、西日本の民間企業で初めて水陸両方の地形を計測できるグリーンレーザースカナードを導入し、2機

配備する。ICTを活用した建設業界向けのiConstruction（アイ・コンストラクション）コンサルタントとして、県外のゼネコンや大手建設コンサルタントの依頼を受け、全国の河川改修や災害復旧現場、港湾・海岸整備で活躍するなど、自ら市場を切り拓いている。

自然を相手にする上で、環境分野は重要な役割を持つ。同社ももとと公共事業の測量と設計を主業務としていたが、公共事業の大幅な削減により社内改革が行われ、大型風力発電所開発の測量、調査、設計を契機に環境分野を強化した。その旗振り役を務めたのが、2003年に代表取締役になった大野木昭夫氏だ。以降、それまで小規模だった環境調査や土質試験を充実させていき、環境調査では生態系調査や生活環境影響調査などを行い、自社で分析機器を保有。2021年に竣工した新社屋はそれまでの取り組みの集大成であり、独自の試験室を環境調査が14室、地質調査が6室保有する。「高度な設備と分析ができる技術者の存在はわが社の強み。今後も成長していく市場であり、県外にも展開したい」と大野木社長は広い視野で業界を見渡す。

コミュニケーションが
技術をつなぐ

大野木社長が就任以来、力を入れてきたのが人材の育成だ。新社屋・新社名という、新章の幕開けとも言えるタイミングにあたり、社員自身に企業ブランディングを任せるなど、「自ら変化する」という意識付けを集中的かつ効果的に行った。「鉄は熱いうちに打て、ではありませんが、すでに目に見えて成果が表れ始めています」と社員の成長を喜ぶ。

社員教育では全社員向けの技術研修をはじめ、中途入社やコンバート社員向けのOff-JTによる集中教育やeラーニングによる学び直しなど、技術面の研修も充実している。しかしむしろ重きを置いているのは双方向のコミュニケーションを核とした人間力の育成だ。例えばマナー研修やリーダーシップ研修など、社員それぞれの課題やビジョンに合わせて、階層別のプログラムを実施。新社屋は2階に環境と地質分野以外の部署を集約させているが、これもその一環と言える。「ワンフロアに集めたことで実際に双方向のコミュニケーションが生まれています。どれほど技術があっても使うのは人間。技術をつなぐのは人であり「コミュニケーションです」と言葉に

熱が帯びる。

技術力と人間力、
両方の成長が大事

「技術系の人はどうしても技術力に没頭しがちですが、人間力と合わせてバランスよく成長することが大事です」と話すのは、地盤チームのリーダーの松本明日香さんだ。松本さんは23年前に新卒で入社。今こそ職場に女性が増えたが、入社当時は男性ばかりだったという。「調査のために工事現場に入ることもありました。現場の人にも良くしてもらい楽しんで仕事をしました」とほほ笑む。チームの先輩や仲間たちとも話がやすく、冗談を言い合える関係を築いてきた。「何より、



大野木昭夫社長。3次元モデルは中国地方全体に展開し、業界を先駆ける。またICTを職場の環境整備に活用して業務効率化や在宅勤務を実現。環境分野は脱炭素社会とのかかわりで新たな展開が期待できそうだと



株式会社 エスジーズ

業種 専門技術サービス業

事業内容 建設コンサルタント、測量業、地質調査業、補償コンサルタント、計量証明事業（濃度、騒音振動）、土壌汚染指定調査機関、作業環境測定機関、一般建設業

創業 昭和51（1976）年5月12日
代表者 代表取締役社長 大野木 昭夫
社員数 135名（男95名 女40名）
（パート・アルバイト含む）

〒683-0031
鳥取県米子市東山町8番地1
TEL/0859-32-3308

https://www.sgs45.co.jp

- 鳥取支店
- 倉吉営業所
- 境港営業所
- 松江営業所

[グループ企業（美勇会）]
美保テクノス(株) (株)TMS (株)リンクス
(株)ミテック 美保エステート(株)
(株)ニチラス (株)スペック
白鳥ケアサービス(株) メディカ・サポート(株)
(株)米子クックパートナー (株)島根テクニカ
大山電気(株) (株)大山生コン

求める人材像 Check!!

- 明るく元気で素直で新しい事を吸収できる方
- チャレンジ精神があり何事にも前向きに挑戦できる方
- 様々な方とのコミュニケーションが取れる方

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0859-32-3308

採用直通 E-mail

honsya@sgs45.co.jp

資料請求

インターンシップ

会社見学

公式サイトは
こちら



独自の試験機があり設備が充実している「ので楽しい」と人にも設備にも恵まれている環境に感謝する。
2年前からリーダー（管理職）を務め、顧客の応対やチームの管理、後輩指導などを担う。今までどのくらいに難しさを感じることもあったが、やりがいはいは大きい。「メンバーそれぞれに合った声かけや指導で良さを伸ばすことを心がけています。部下がスキルアップしていくことが何よりうれしくて、親のような気持ち」と温かく導いている。

挑戦を続け業界をリード

同社はICTや環境分野など、常に新しい分野に挑み、業界を先駆けてきた。3次元BIM/CIMは中国地方全体に展開し、また市場の拡大とサポートをしたと、ゼネコンを対象としたドローンスクールも開校。大野木社長は「全国に通用するハイレベルな技術者を育成し、市場全体を活性化したい」と業界全体を見渡した戦略を練る。この、自社だけでなく業界や社会全体に貢献する姿勢は、大野木社長のビジネスマ



最先端の機器・設備を備え多様な調査に対応

新社屋の竣工に合わせて試験室と分析室の機器を一新し、大学並みの設備を整えている。3階の環境チームでは生物室や分析室、GC-MS室などそれぞれの目的に合った試験室を14部屋整備。希少野生動物植物調査をはじめ、生活環境影響調査、騒音振動調査、アスベスト調査、悪臭調査など幅広い分野の調査や分析を行っている。



水中地形の計測が行えるUAV搭載型グリーンレーザー。水を含む広範囲な地形を短時間かつ安全に3次元化することができる。

道路、河川、海上の基準点測量、水準測量、縦横断測量、深淺測量、宅地造成太陽光発電、バイオマス発電などの幅広い分野の測量や、道路や橋をはじめ上下水道、公園緑地、砂防、造成などの設計で多くの実績を持つ。写真は左が佐陀川大型スリットダム（地質調査・測量・設計）で、右が南部バイパス（測量・道路設計）。

3次元モデルは、何でもできる。と思われがちだが、発展途上の分野でもあり、万能というわけではない。それでも堀さんは「勉強を重ねただけに二ズに込めることができ、自分の成長がそのままチームの成長に反映され、やりがいはいは大きい」と充実感にあふれた日々を送る。

発展途上だから面白

BIM/CIMを用いた3次元モデル制作するICTチームは、建設業界の新しい分野を切り拓く先鋭部隊であり、メンバーは異業種からの人材や未経験者がほとんどだ。チームキャップを務める堀圭将さんもその一人。映像制作会社で3Dやドローンを扱い、土木の資格関係の映像制作していた経験を生かして4年前に入社した。「われわれの仕事は法令を遵守する必要がある」「なぜそうなるのか」という作業の根拠やルールを示すことが大切です。未経験者が多いので、この点は意識的に伝えていきます」と気を配り、研修で得た双方向コミュニケーションのスキルも生かしながら浸透させている。

「地域の人の暮らしやすさの向上に直接かかわれることが、この仕事の魅力です」と話すのは2021年に入社し、設計チームで土木工事の設計に携わる大村智哉さんだ。大村さんは岡山県の大学で地球科学分野の中でも防災を専攻。2018年の西日本豪雨では学校の一部で土砂崩れの被害があり、その後も全国各地で頻発する自然災害に「人々の生活を守りたい」という想いを強くし、愛着のある地元に戻って来た。
入社当初は設計ソフトの使い方や用語がわからず戸惑ったが、いろいろな業務にかかわり、自身も勉強を重ねて知識を身に付けていった。「チーム内で分業して仕事を進めますが、先輩とはプライベートでもつながりがあり、また同世代の社員も多く仕事はやりやすいです」と笑顔を見せる。これまで小学校の芝生化

防災や暮らしに貢献

「地域の人々の暮らしやすさの向上に直接かかわれることが、この仕事の魅力です」と話すのは2021年に入社し、設計チームで土木工事の設計に携わる大村智哉さんだ。大村さんは岡山県の大学で地球科学分野の中でも防災を専攻。2018年の西日本豪雨では学校の一部で土砂崩れの被害があり、その後も全国各地で頻発する自然災害に「人々の生活を守りたい」という想いを強くし、愛着のある地元に戻って来た。
入社当初は設計ソフトの使い方や用語がわからず戸惑ったが、いろいろな業務にかかわり、自身も勉強を重ねて知識を身に付けていった。「チーム内で分業して仕事を進めますが、先輩とはプライベートでもつながりがあり、また同世代の社員も多く仕事はやりやすいです」と笑顔を見せる。これまで小学校の芝生化



柔軟な発想で新しい分野を切り拓く

ICTチームは25名のメンバーで構成され、それぞれの柔軟な発想がチームの強みだ。BIM/CIMによる3次元モデルの制作や、ドローンによる3次元計測などを行っているほか、ドローンスクールの講師として技術者を育成する役割も担う。



目に見えない地中を調べて安全を守る

社屋の1階に地盤チームの試験室があり、高度な機器がそろそろ。目には見えない地質や地層の状況を正確に調査・分析して、データにまとめている。分析結果によってその地盤に見合った構造物の基礎の仕様が決まるため、重要な役割だ。



業界をリードする新社屋

2021年に竣工した本社社屋。1階は地盤チーム、3階は環境チームの試験室や分析室があり、2階のワンフロアに測量・設計・補償・ICTチームや事務職らが集約されている。またドローンの免許制度スタートにより、スクールの需要も高まる見込みだ。



地域の生活を支える構造物を設計

設計チームは地域の安心・安全な暮らしを支える道路や橋梁、上下水道、砂防などの社会資本の設計を手がけ、チーム内で分担して作業を進めている。メンバーは若手からベテランまで幅広いが、オープンな雰囲気でも相談しやすい。